

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和3年12月20日 報告者：片井 明子

行事種別	講演会	行事番号	210011117	
開催日	令和3年12月11日(土)			
時 間	開 始	15:00	終 了	18:00
場 所	Web 配信 (Web ライブ)			
テーマ	「造血幹細胞移植関連業務」採取・移植・治療～各職種の立場から～			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	愛知医科大学病院 片井 明子			
講 師	<p>講師 1:造血幹細胞移植におけるフローサイトメトリーの役割 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 池口 美代子</p> <p>講師 2:臨床検査技師による末梢血幹細胞移植への参画 藤田医科大学病院 杉浦 縁</p> <p>講師 3:幹細胞移植への関わり～看護師より～ JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 小見山 貴代美</p> <p>特別講演：同種造血幹細胞移植と低免疫グロブリン血症 金沢大学付属病院 血液内科 石山 謙</p>			
内 容	<p>テーマ「造血幹細胞移植関連業務」採取・移植・治療～各職種の立場から～とし、10月に法改正に伴い業務が拡大されたことを受け、他職種（医師、看護師）からも、広く知識を得れるような内容で講演会を実施しました。末梢血幹細胞採取業務で採取時の穿刺、機械の操作や抜針などの業務が可能になったことから、アフエレーシスナーズ、臨床輸血看護師より採取時の穿刺のコツや患者さんと接する業務についてのご講演を、また検査技師より拡大された業務への関わり方についてのご講演いただき、今後その業務に関わる可能性がある私たちにとって有益な情報でした。また従来より検査技師が行ってきた CD34+細胞測定は、採取タイミングをきめる重要な検査であり、長年その業務に携わってきた検査技師より検査のポイントなどをご講演いただきました。特別講演では、造血幹細胞移植の現状や移植後の造血能力回復までの間、感染症予防のために使用されることがある免疫グロブリン製剤の使用ガイドラインについて、わかりやすくご講演いただきました。質問も多数寄せていただき、終了時刻より30分も延長してしまいましたが、最後までご聴講いただきました。造血幹細胞移植関連業務を行なっている施設にとって役立つ内容を共有することができました。</p>			
参加者	総数：90名(会員86名(内県外会員26名)、看護師2名、医師1名、賛助会員1名)			
共催、後援など	一般社団法人 日本血液製剤機構共催			

2021.12.20